

吉田町出身の海運王 山下亀三郎翁の想い脈々と...

ご縁で繋がるふるさと宇和島コロまじわうミニコンサート



コンサートで演奏する「ふるさと宇和島クインテット」。左から、奥野由紀子さん（フルート）、荒井豪さん（オーボエ）、河野陽子さん（ホルン）、大森俊輔さん（ファゴット）、山内利紗さん（クラリネット）

宇和島市吉田町喜佐方出身で「吉田三傑」の一人で海運王の異名がある山下亀三郎翁が戦前、「船はいつか沈む。だが、人を育てる心育てる教育は永遠である」との教育理念の下、全国に学校を創設したうちのひとつが桐朋学園の前身となる山水中学校、山水高等女学校で、敗戦によって山水育英会は解散を余儀なくされ、一切を東京文理科大学・東京高等師範学校（のちの東京教育大学）に移管して、1947年、財団法人桐朋学園が誕生した。

同氏は、指揮者で昨年2月に亡くなった小澤征爾氏をはじめ世界的に活躍する多くの音楽家や各界の第一線で活躍する優秀な人材を数多く輩出している名門で、平成30年の西日本豪雨災害で被災した吉田町を音楽で元気づけようと準備が進められていた中、新型コロナウイルス蔓延の為、中止されたが、2023年に「ご縁で繋がるふるさと宇和島コンサート」と銘打ったコンサートが開催され、大きな反響を呼んだ。

そしてこの、「ご縁を繋ぐ」と関係者の努力もあって、昨年10月19日、「2024ご縁で繋がるふるさと宇和島コロまじわうミニコンサート」がパフィオうわしまで開催された。

このコンサートには、愛媛県立宇和島東高等学校（以下・宇東高）と同宇和島南中等教育学校（以下・宇南高）の吹奏楽部の学生たちも参加。学生たちは、今回演奏を披露した音楽家によるリモートレッスンを事前に受けてきた。そして、コンサートの二日前、指導した演奏家と学生たちは初めて対面での指導を受け、本番に備えた。

また、コンサート前日には、吉田町の旧喜佐方小学校体育館で山下亀三郎生誕80年祭と清家吉次郎没後90年祭が合同で執り行われ、コンサート出演者による献奏が行われた。その他、吉田町の村井幼稚園と津島町岩松の小西本家離れ・蔵でもミニコンサートが開催され、めったに聞けない一流の演奏を楽しんだ。

今回は、桐朋学園音楽部同窓会の事務局長で、ご縁で繋がるふるさと宇和島プロジェクトの実行委員長でもある椎名真紀さんと宇和島東高等学校吹奏楽部長の酒井吟さんと、宇和島南中等教育学校吹奏楽部の吉井智菜さんに寄稿頂いたのでご覧いただきたい。



山下亀三郎、清家吉次郎の合同慰霊祭での献奏の様子



吉田町の村井幼稚園でのコンサートの様子



パフィオうわしまでのコンサート終了後の集合写真

- 奥野由紀子
フルーティスト 奥野 由紀子
オフィシャルサイト
- 荒井豪
Go Arai, Oboe |
荒井豪 Official Web Site
- 大森俊輔
X
- 山内利紗
Risa X Ripa music life
- 桐朋学園ホームページ

ご縁で繋がるふるさと宇和島プロジェクトを振り返って



今回の一連のプロジェクトを取り仕切られた、桐朋学園同窓会の曾根さん(左)と椎名さん(右)

始まりはチャリティーコンサートの依頼だった。平成30(2018)年の豪雨災害で13人もの犠牲者を出した宇和島市吉田町に対し何らかの援助をしたい。ついでには音楽部門の力を借りたい。という、男子部同窓会曾根氏からの依頼だ。我々の母校である桐朋学園は男子部、女子部、音楽部門と3部門がそれぞれ独立した独自の教育を行っており、普段の学生生活での交わりは、ほとんど無いが、卒業生のべ7万人を擁する同窓会同士は横に繋がっている。財源は？人集めは？そして何より人を動かす為の動機と趣旨が必要である。私自身その時初めて、母校の前身の山水と山下亀三郎翁の関係を知り、遅ればせながら本や資料を読み漁った。

コンサートの趣旨を探る中で、亀三郎翁の故郷喜佐方への深い思いと御母堂に対する思慕と感謝の念に行きあたった。大型船が10隻も造れる大金を投じてでも母の愛情をこの世に残したいと思うその心には誠があつた。それならば、その恩恵を受けた者として、その選択は正しかったということ、我々の音楽を以て誠心誠意示すべきではないかと思つた。

また、種を蒔いた亀三郎翁は勿論の事、その意を汲んで山水設立に尽力された方々、戦後の窮地に桐朋と名を変えての学校存続に携わった方々、音楽の早期教育を提唱して齋藤秀雄氏等が設立した子どものための音楽教室を受け入れてくれた桐朋学園、まさに無数のご縁の繋がりによって今があるのである。こうしてコンサート名は「ご縁で繋がるふるさと宇和島コンサート」に決定



椎名 真紀

縁で繋がるふるさと宇和島プロジェクト 実行委員長

トの核となるヴァイオリンの徳永二男氏やチェロの山崎伸子氏等演奏家の出演快諾を得て実現の運びとなった。

宇和島の未来である真直ぐで純粋な子ども達に音楽を届け、このご縁を更に未来へ繋げたいとの思いから、コンサートと共に力を入れたのが「アウトリーチ」である。2024年度は宇和島市教育委員会主催による「ココロまじわうアウトリーチ」が実現し、生徒へのリモートレッスンを通して繋がりを深めた。この様な試みが人口流出や少子化問題解決に役に立てばと思う。また、このアウトリーチ活動に若手の演奏家が積極的に関わり、大きな牽引力となってくれた事も嬉しい収穫であった。

今回、山下亀三郎翁80年祭で献奏をした際には、参列された山下家の子孫の方々の中に亀三郎翁の姿を重ね合わせ、翁の御霊も喜んでくださっていると感じる事が出来た。

亀三郎翁の「船はいつか沈むが教育は永遠」という言葉は、まさにこのプロジェクトの根底に思っている。そう信じて行動した人間がいたからこそ今がある。百年後に誰がこの場に立っているかは分からない。しかし、亀三郎翁の思いが受け継がれたこの活動が、教育という不沈の大型船として、百年後も洋上を悠然と航行していることを願ってやまない。

宇和島東高等学校吹奏楽部 部長 酒井 吟



今回、「2024ご縁で繋がるふるさと宇和島」に出演させて頂きました。コンサートに出演させて頂きました。宇和島東高等学校吹奏楽部の部長を務めております酒井吟です。

私は、トロンボーンを担当しており、演奏会では、もう一匹の猫「クラーケン」(金管八重奏版)を演奏しました。この作品を演奏するにあたり、ふるさと宇和島クインテットの河野先生にオンラインレッスンをさせて頂くこととなりました。オンラインレッスンを受講することは初めてだったこともあり、通信やマイク接続の問題、実際に聞く音との違いなど様々な問題が発生し、スムーズに進まなかったりしましたが、レッスンの回数を重ねるごとに内容のある活動ができ、自分やメンバーの成長を感じることができたとともに、本番のステージでは、生き生きとした音色でクラーケンの堂々とした様子を表現することができました。

今回の演奏会を通して、オンラインでの音楽活動への可能性を感じることができたとともに、音楽へ向かう姿勢を見つめ直すきっかけをいただくことができました。今回学んだことを、今後の部活動に活かし、さらなる飛躍につなげていきたいと思っております。



宇和島南中等教育学校吹奏楽部 吉井 智菜



ミニコンサート本番に向けて、桐朋学園出身の先生方にZOOMでリモートレッスンをさせて頂きました。私たちフルート三重奏は奥野由紀子先生、管打八重奏は山内紗先生に指導していただきました。

リモートで東京と宇和島が画面越しにつながったときの感動は忘れられません。リモートレッスンという初めての試みで不安なこともたくさんありましたが、技術面だけでなく表現力や曲の解釈の仕方など、具体的な指導を受けることができました。

そして、本番の2日前からは対面でレッスンをさせていただきました。吹くときの姿勢からコツまで、たくさん教えていただき、不安だった部分を自信を持って吹けるようになりました。奥野先生のフルートの音を直接聴いたとき、芯のある透き通った音と聴く人を魅了させる表現力に驚きました。ミニコンサート本番では、心に残る演奏を披露することができました。

桐朋学園の5人の先生方、今回このような機会を与えてくださった関係者の方々、本当にありがとうございました。今回の経験を生かして、様々な大会やイベントで良い音楽を演奏できるよう努力し続けます。

そして、今後も音楽を通して地域の方々につながっていきたくと思っています。これからも宇和島南中等教育学校吹奏楽部をよろしくお願ひします。

